

スギウラ株式会社 027-361-5808	
季節の話題 この時期になると、楽しみにしていることがあります。皆さんは、「サラリーマン川柳」をご存知でしょうか。今回で 25 回目を迎える、「第一生命 サラリーマン川柳コンクール」です。日常の生活の中で、思わずあるあると共感してしまう、ちょっと一服したいときにちょうど良い頭の体操です。今回は全国から 27184 句の応募があり、その中から傑作 100 句が決定しました。さらにこの 100 句から、一般からの投票により第 1 位が決定します。投票された方の中から抽選で賞品も当たりますので、皆さんも投票されてはいかがでしょう。投票締切は、3 月 15 日です。100 句の中から、個人的趣味でいくつかご紹介します。 一日一話(PART6) 『喜怒を色に形さず』 今回で6回目となりました、中国古典の中にある一節です。 プロ野球埼玉西武ライオンズの元監督だった広岡達朗氏は、ゲームの戦況いかににかかわらず、ベンチでは顔色を変えないことで有名でした。ワンサイドゲームだからといって、ことさら笑顔になるわけでもなく、大苦戦だからといっても渋面をつくりませんでした。こういう冷静沈着な態度が、チームを優勝に導いた力量のひとつであるとして、高く評価されました。 確かに喜怒哀楽の感情を顔に出さないことは、リーダーのたしなみのひとつでしょう。特に危機管理のときには、必須の要件といってもいいかもしれません。組織が危機に見舞われたとき、どうしても部下は上司の顔色をうかがいます。そんなときに上司があわてふためいていたのでは、組織全体が浮き足立ってしまいます。ピンチのときでも涼しい顔をしているだけの演技力が要求されるのです。 もちろん、ひとりきりのときには、泣こうとわめこうと構いません。精神衛生上、ひとりのときには、積極的にストレス解消をすべきでしょう。しかし、側にひとりでも部下や関係者がいたら、極力、自制する必要があります。 群馬出身の、渡辺久信監督には、広岡元監督を超えるような大監督になって欲しいものです。	
スギウラ株式会社	〒370-0006 高崎市問屋町 2-2-8 電話番号 代 表 027-361-5808 営業1課 027-361-5734 営業2課 027-361-5780 Fax 027-361-1272 当社 Web サイト www.kamisugiura.co.jp

ニュースレターQ	
スギウラ株式会社 027-361-5808	
2012 年3月 1 日 発行 第 56号	
特 集	封筒・特殊紙キャンペーン
・ 封筒、特種東海製紙 特殊紙キャンペーン	3 月になりました。今年の冬は寒かったので、暖くなるこの時期を心待ちにしている方も多かったのではないのでしょうか。
・ PANTONE	また「春は出会いと別れの季節」とも言います。そして今、東京大学が世界の先進国の主流に合わせて秋入学を推進しようとしています。もし実現して、さらに全国に波及したらこのような言葉も風化してしまうのでしょうか。
・ 火事と4S活動	同じように利便性・合理性等を求めて行われた市町村合併でも、多くの歴史ある地名が失われました。古くからあるものを軽視もしかねない動きは、個人的にはとても淋しく思います。
・ わけあり大処分市	しかしそうは言っても秋入学は実現もまだ先なので、依然「春は出会いと別れの季節」です。そんな時期に多くの需要が生まれる封筒・特殊紙（今回は特種東海製紙）のキャンペーン中です。
・ 季節の話題	この時期に増える事務書類用の封筒、親しい人に出す挨拶状・手紙、はたまた新年度向け商品のDM用封筒、特殊紙自体を封筒にして視覚効果・宣伝効果を狙うのも良いですね。
・ 一日一話(Part6)	定番品以外にも様々なラインナップのご用意があります。まずは弊社営業までお問い合わせ下さい。（A）
PANTONE	
「この前、パントーンで色の指定をされちゃって困ったよ。」	ンを使用することが多くなってきています。なぜならパントーンは、世界でもっとも広く使われているカラーガイドだからです。
これは、先日お客様から出た話題です。私も困りました。「パントーンってなんだ？」恥ずかしながら知らなかったからです。困り顔を察してか、お客様が簡単に説明してくれました。本当に、まだまだ覚えなくてはいけないことが沢山あると痛感いたします。	日本では 2007 年にソフトバンクがパントーン社とのコラボレーション携帯を販売したことが話題になりました。他にもユニクロが同じようにコラボレーションしたTシャツを販売しています。こうして調べてみると私たちが目にするものに、多く使われていました。
PANTONE (パントーンまたはパントン) とは、アメリカのパントーン社が提供しているカラーガイドの事です。日本でいえば「DIC」や「TOYO」が例として挙げられます。カラーガイドとは、色がナンバリングされていて、「PANTONE の○番」といえば、決められた一つの色を特定するシステムです。自動車の色や携帯電話などは、グローバル化の影響で、パントー	（裏へ続く）

パントーンが発祥は古く、1963年に考案されています（ちなみにDICは1967年）。世界トップシェアと前述しましたが、その用途はスポーツ用品、ジュエリー、工業製品、もちろん印刷物と、挙げていけばキリがありません。現在、世界では「色といえばパントーン」といわれるほどになっています。その色数は相当なもので、グラフィック・印刷・Web向けが2058色。アパレル・インテリア向けで1925色、プラスチック・プロダクト向けで1740色となっています。素材によって微妙に変化する色を、広範囲にカバーしています。

色は、こだわる方には微妙な差異でさえ気になるものです。話は変わりますが、以前ウェデ

ィングプランナーの方に、TANT（152色の色数がある、特種東海製紙のファンシーペーパー）の見本帳を差し上げたことがあります。TANTの営業をするためではなく、プランナーさんと依頼人との色のイメージの差を埋めるために利用してもらえたらと思って渡しました。そのプランナーさんには大変喜んでいただきました。

私は紙の営業で、「こんな色の紙」と依頼をいただくことが度々あります。そんなときに、お客様の言っている色がパントーンの中にあるかもしれない。そういった場合に伝えられるように、少しでも多くの知識を身につけていきたいです。

（K）

火事と4S活動

昨年秋、群馬県玉村町で連続不審火事件が起きました。1ヶ月以上に渡って、町内各所で放火と思われる火事が続き、周辺の住民や企業は不安な日々を過ごしました。

結局、犯人はその後捕まりましたが、なんと地元の消防団員の21歳の青年でした。彼は家出中で、動機について「火をつけるとスカッとした」などと供述していました。消防団員だった彼は、重点的に警戒する地区・時間等の情報を当然ながら持っており、そこの隙を突いて放火して廻っていたようです。

日本で一番多い火事の原因は放火です。放火犯をキチンと捕まえることは勿論重要ですが、放火されない予防・環境づくりも同じくらい大切です。

ところで弊社では数年前から「4S活動」を行っています。これはトヨタが職場を綺麗に保つための実施手順と実施内容を示したもので、「整理」「整頓」「清掃」「清潔」の頭文字をとったものです。具体的には社内外の清掃、草むしりやゴミ拾いを行い、また倉庫内では商品その他の整理整頓、掃除、床の補修などを行ってきました。特に整頓に関しては、床に白線を引き、物を置く範囲と置くものを決めたことは、片付けに大きく役立ちました。

そして今回はこの連続放火事件を受けて、「燃えやすいものを放火されやすい場所に置いておかない」ことを念頭に、まずパレット（紙等を積む木の板）の片付けに着手しました。必要以上にある分は早めに引き取ってもらう、壊れたものはバラして燃えるゴミとして処分するといった具合です。さらに倉庫周りのゴミ拾い、草むしりを行い、放火されにくい環境づくりを進めました。

一度火事に遭ってしまうと、大事な財産、住む場所働く場所、さらには命までもいっぺんに失いかねません。そうならないためにも、4S活動をはじめ様々な取り組みを通じて、防火に努めています。

（A）

わけあり大処分市

3月7日（水）高崎市問屋町のビエント高崎・展示会館にて、「第5回 問屋のわけあり大処分市」が開催されます。

2010年から、年2回開催し、今回で5回目を迎えました。

高崎卸商社街協同組合が主催し、今回は、前橋問屋町からの出展企業を含めて34社が参加します。

開催時間は、午前10時から午後5時までですが、毎回開店前から行列ができ、時間を繰り上げて開店するほど大盛況です。ちなみに、今回の来場者は、5000人を予想しているそうです。

問屋の「わけあり品」というと、どんなものを想像されるでしょうか。

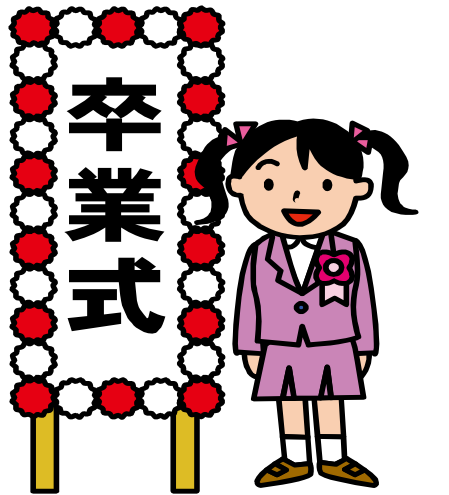
箱が少し潰れてしまったもの、賞味期限が近いもの、季節商品で季節をまたいでしまったもの、これくらいは売れるだろうと思ったけれど残ってしまったものなどです。

当社から出品するものは、目玉商品として、BOXティッシュ、トイレットロールがあります。この2品については、数量を充分用意したつもりですが、売り切れの際は、ご容赦願いたいと思います。

その他に、紙おむつ（大人用とベビー）、キッチンタオル、ウェットティッシュ、消毒ミストスプレー、ポケットティッシュ、コピー用紙、色上質紙、封筒などを販売します。

その他の出展企業は、玩具、建材、毛皮・装飾、菓子、食器、衣類、ギフト、食料品、文具、飲料、海産物などのお店があります。

詳しくは、折り込みチラシや、3月2日発行の「TAKATAI」という生活情報紙に掲載されますのでご覧ください。



私も、年に2回の処分市は、開店からお昼頃までは、戦争のような忙しさですが、日常の卸商業務では味わえない何ともいえない楽しさを感じます。それは、買うつもりで来場して下さったお客様が、お目当ての商品に飛びついてお買い上げ下さること、そしてその場で現金で回収できるからかも知れません。

課内の営業マンに、過去の処分市に参加した感想を聞いてみました。

ベテランのAさんは、お客様との駆け引きや、価格のやりとりが楽しい、とか、例えばお一人様1個限定の商品を何度も買いに来たり（売る方も顔を憶えます）、お母さんが子供を3人連れてきて、「4人だから4個ちょうだい」と言われたり、長時間商品の説明をしたけれど、結局お買い上げ頂けなくて残念な思いをしたことがあった。とのことでした。また、若手のH君は、一般消費者のニーズを知ることができる機会なので、大変勉強になります。紅一点のYさんは、休む時間もなくて大変ですが、いつもとは違う仕事ができるので楽しいとのことでした。

現在、社内のスタッフは、当日に向けて、棚割りを考えたり、ポップを作成したりと忙しい毎日です。

我々売り子も体調を整えて、当日を迎えますので、ひとりでも多く御来場いただけるよう、お待ち申し上げております。